集団活動に溶け込むことができない生徒の指導について

櫻井　遥（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　金田　安正

キーワード：集団活動の不適応　生徒指導　ソーシャルスキルトレーニング（SST）

１．緒言

筆者は、学生ボランティアとして、授業の補助や部活動の指導などを行っている。その活動を行っている際、なかなか集団に溶け込めず、目立つ発言や行動をとる生徒が多数みられた。

そこで本研究では、このような生徒に、指導者側はどのような指導をすれば良いのかを検討し、その指導法がどのように効果があるのかを明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

研究の対象となる生徒４人の行動を観察記録して、文献と照らし合わせながら、気になった特徴的な行動ポイントをまとめ、その原因を明らかにした。その上で矯正のための指導法としてソーシャルスキルトレーニング（SST）を取り入れて、その行った結果を明らかにする。

３．結果と考察

行動観察をとる中で、特に気になる行動をとっている対象生徒Ｏに着目し、Ｏの気になる行動を改善するためのソーシャルスキルトレーニング（SST）「友達に物を借りる」「勝手に教室を出る」「友達と仲良く会話をする」を行った。

１）段階①

SST をインストラクション→モデリング→リハーサルの順番に行った（段階①）。しかし、対応の仕方を一度だけ行ったのではなかなか理解できず、使用する道具を変えたりなど、少し違った対応をすると戸惑ってしまい、なかなか先に進めなかった。

そこで、もう一度インストラクションに戻り、再び同じことを繰り返し行った。リハーサルが終わるごとに、対応に関する注意、アドバイスを丁寧に行い、徐々に助言を減らしていくようにした。すると、何度か繰り返し行うことにより、Ｏ自身に対応の仕方が理解でき、自然と身について、対応の仕方に安定感が見られた。

２）段階②

段階①で変化がみられたため、次の段階②のリハーサル→モデリングへと繋げていった。リハーサルをして、できたら褒める。できなければ、少しの助言を加え、さらにスムーズな対応ができるよう、筆者がＯに対するアプローチを少しずつ減らした。褒められることにより、Ｏ自身に自信がつき、自然な対応がとれるようになった。

３）SST の進め方

段階①を行い、さらに安定した行動ができるようにするため、段階②を行う。実施するトレーニングにより、トレーニングを繰り返す回数は異なってくるが、どのトレーニングも一度では定着化しない。段階①と段階②を繰り返し、これをパターン化することにより、Ｏに自然と対応の仕方が身についていき、定着化していくと考えられた。

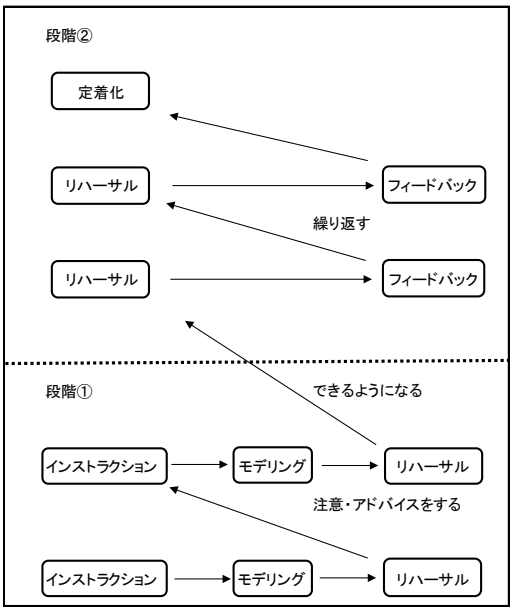

図　SST の進め方

４．まとめ

３つの SST を終えた結果、今回行ったトレーニングは、Ｏにとって有効であるという結果が得られた。

だが、どのトレーニングにも筆者が近くにおり、いつもと同じ状況であったからできたことである。

ただ、対応の仕方を身につけさせるだけではなく、いつもと違う環境で行うといった、環境の変化にも対応させる必要があることが分かった。

このような指導は、大きな変化を期待するのは難しい。そのため、ちょっとした生徒の変化に気づき、それを認め、課題を一つひとつ確実にクリアしていくという姿勢を学ぶことができた。